

突如ハイウェイに《無人カー》出現!  
パトカー撃破!トラック炎上!  
まるで生き物のように襲いかかる黒いカマロ!  
目的は何か!時速200キロ怒りの暴走——



# クラッシュ!



〈カラー作品〉

ホセ・ファーラー  
スー・リオン  
ジョン・エリクソン  
製作/監督チャールズ・バンド  
撮影アンドリュー・デービス  
日本ヘラルド映画

Herald

〈カラー作品〉アメリカ映画 日本ヘラルド映画



# カラッシュ!

2月26日(土)よりロードショー!

ニュー東宝 シネマ2 571-1947

## ■無人の車が突然走り出した!

それは突然起こった。無人のカマロを、廃車場に運び込み、キーを入れた瞬間、車はドライバーをふり落とし、無人のまま走り出していった。もの凄いスピードで疾走し続けるカマロを、何台ものパトカーが追跡するが、車はカー・チェイスをふりきり、非常線を突破して、ひたすら走り続けていく。

一体何処へ、何のために走り続けるのだろうか……?

## ■新手的オカルト・カー・アクション

「エクソシスト」から3年。オカルト・ブームはすでに過ぎ去ったかとおもわれた。が、今年になって、それは姿を変えながら、またまたブームを巻き起こす勢いである。

クラッシュノ! — その題名どおり、もの凄い映画がやってきた。何しろドライバーなしで車が突然走り出し、目茶苦茶な運転で事故を起こしては、容赦なく人間に襲いかかっていくのである。無人の車に襲われるその恐怖。思わず背筋がぞつとするのだ。

## ■夫への復讐に燃える「無人カー」

だがその無人の気狂い車は、目的もなく走り続けているのではなかった。それは復讐と破壊の力を持つ不思議な超能力によって、自分の命を狙った夫に対して、若き妻キムが復讐を図っているのだった。

夫のマークは、妻のキムが運転する車の事故で、足の骨を折ってしまふ。その怨念は日毎に強くなり、遂には殺意に変わっていった。

ところがキムは、何げなく手にした「魔よけ」の人形によって、不思議な超能力を行使するようになる。彼女は遠く離れたところから、物を自由に動かすのだった。

夫の忠犬に襲われ、自動車事故を起こし、記憶を喪失してしまったキムは、無意識のうちこの念動力を使って夫に復讐するのである。

キムの愛車カマロが、突然無人のまま走り出し、何十台もの車をぶつ壊しては、疾走し続ける。車は、夫の自宅へ向かって、ひたすら走り続けていくのだった。やがて自宅の前へ着くと、車はまるで生き物のように無気味な表情で止まり、夫に襲いかかろうとしていた……。

## ■激突・炎上・そして「無人カー」の恐怖

念動力によって無人の車が動き出し、人間に襲いかかっていくという奇抜なアイデアもさることながら、無人のカマロとパトカーが繰りひろげるカーチェイス、ハイウェイで激突、炎上する五十台もの車。その派手なカー・アクションは、「無人カー」の恐怖とプラスして、従来の激走映画を凌ぐ、見せ場たっぷりな娯楽映画に仕上がっている。まさにニュー・タイプのカー・アクションの登場である。

妻のキム役には、十六才の時S・キューブリック監督の「ロリータ」でデビューし、一世を風靡した、スー・リオンが扮し、「キャプテン・アメリカ」以来久々の登場である。夫のマークには、「ラ・マンチャの男」「アラビアのロレンス」の名優ホセ・ファラー。その他、ジョン・エリクソン、ジョン・キャラダイン等、異色のキャストライングである。また激突する五十台もの車を運転するのは、アメリカの一流どころのスタントマンが総動員して、スリリングな見せ場をつくっている。映画ファンだけでなく、カーファンにとっても必見の娯楽大作である。